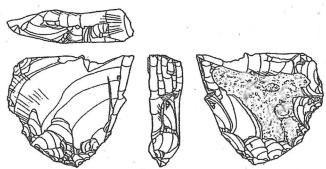


雲仙市文化財調査報告書 第11集
kogakura
小ヶ倉A遺跡

(旧石器・縄文草創期編)

—グループホーム建設に伴う発掘調査報告書—



2012

長崎県雲仙市教育委員会



小ヶ倉A遺跡上空より百花台遺跡群及び雲仙普賢岳を望む

雲仙市文化財調査報告書 第11集

k o g a k u r a

小ヶ倉A遺跡

(旧石器・縄文草創期編)

—グループホーム建設に伴う発掘調査報告書—

2012

長崎県雲仙市教育委員会

発行にあたって

このたび平成13年度から平成14年度にかけて実施しました、グループホーム建設に伴う小ヶ倉A遺跡の範囲確認発掘調査の報告書を発刊することになりました。当市は平成17年10月11日(10に11日)に7町(国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町)が合併して誕生し、「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現を目指しています。

小ヶ倉A遺跡は、雲仙普賢岳より伸びるなだらかな丘陵上に所在します。南に仰ぐ雲仙普賢岳の頂上付近には、平成新山と名付けられた溶岩ドームが目前に迫ります。その溶岩ドームからは今も時折水蒸気が立ち上り、地下のマグマの活動は停止してもなお高温の熱を発し続ける大地の力強さを感じられます。平成新山のふもと、小ヶ倉A遺跡より五百㍍ほど南側には、百花台遺跡群が広がります。これまでの発掘調査において、多くの遺物が検出されており、島原半島の古代人の生き生きとした生活ぶりを彷彿とさせる遺跡です。この旧石器時代から中世までの大集落は、現在県立百花台公園の芝の下で永の眠りについております。遺跡の北側に目を移せば、普賢岳の噴火により形作られた扇状地が広がり、その先には「宝の海」有明海が青い水をたたえています。

小ヶ倉A遺跡からは、旧石器時代から縄文時代晩期までの幅広い時代の遺物・遺構が発見されており、いずれの時代も層位的にきちんとした文化層でとらえられることが大きな特徴であります。特に今報告の縄文時代草創期の「土器と細石器」の共伴の事実は、洞穴遺跡を除けば、県内では佐世保市宇久町城ヶ岳平子遺跡、五島市岐宿町茶園遺跡に次ぐ発見で、縄文時代草創期の歴史解明に大きな光を当てるものと考えております。

雲仙市にも近年開発の波が押し寄せ、各種開発事業が増加しております。遺跡の保護と開発の狭間で、貴重なわれわれの歴史遺産をいかに保存していくのか、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝える必要があります。このことは私たちに課せられた重要な責務であります。

今回、調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしましたが、遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、ご協力くださいました、土地所有者様、グループホームくにみの里様に衷心より感謝申し上げ発刊のことばといたします。

平成24年3月30日

雲仙市教育委員会
教育長 塩田貞祐

例　　言

1. 本報告は2003年（平成13年度～平成14年度）に実施したグループホームくにみの里建設に伴う長崎県雲仙市国見町多比良に所在する小ヶ倉A遺跡の遺跡範囲確認調査の報告である。

2. 調査は国見町教育委員会（現雲仙市教育委員会）が担当し、下記の期間発掘調査を実施した。
2003年2月14日～2003年2月24日（平成13年度）TP（試掘坑）-1～TP-6（総面積29m²）
2003年4月17日～2003年4月26日（平成14年度）TP（試掘坑）-7（総面積24m²）
2003年7月13日～2003年7月30日（平成14年度）TP（試掘坑）-8～TP-10（総面積56m²）

3. 調査体制は次のとおりである。

調査主体 国見町教育委員会
教育長 原 宮之
教育次長 吉田 正昭
社会教育係長 江副俊一郎（平成13年度）
社会教育係長 柴崎 孝光（平成14年度）
調査担当
社会教育係 辻田 直人
文化財調査員 竹中 哲朗（平成14年度・現諫早市教育委員会）

現体制 雲仙市教育委員会
教 育 長 塩田 貞祐
教 育 次 長 山野 義一
生涯学習課長 村山 岩穂
課 長 補 佐 金子 悅治
課 長 補 佐 田中 卓郎
文化財班参事補 江崎 亮太
文化財班参事補 辻田 直人
文化財班主事 富永 康史
文化財調査員 村子 晴奈・竹田 将仁
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・小笠 智枝

4. 現地での遺構実測は酒井由紀子・東文子・林繁美・寺中典子・竹中・辻田が行った。遺物の実測は早稲田・濱本秀美・辻田が行い、トレースは早稲田が行った。挿図の作成は辻田が行い、トレースは早稲田が行った。写真は現地を竹中・辻田が、遺物を村子・早稲田・辻田が行った。

5. 遺構実測の一部（ドットマップ作成）は、調査担当者が計測した座標値データを元に、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6. 火山灰分析・年代測定・植物珪酸体分析業務は株式会社 古環境研究所に委託した。

7. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市歴史資料館 国見展示館で保管している。

8. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土座標はI系（旧測地系）による。

9. 第1表・第3表中の黒曜石の石材分類は肉眼観察により以下のとおりに分けた。

黒曜石A－漆黒色 黒曜石B－透明部分の入る黒色 黒曜石C－白色の粒が入る黒色
黒曜石D－極小の白色粒の入る灰黒色（なし肌の黒曜石） 黒曜石E－縞模様が入る黒色
黒曜石F－青灰色

10. 現地調査および本書の刊行にあたって多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。
宇土靖之（長崎県島原市教育委員会）、川道 寛（長崎県埋蔵文化財センター）、下川達彌（長崎活水女子大学）、杉原敏之（福岡県教育庁）、早田勉（株式会社火山灰研究所）、田島俊彦（日本地質学会）、長岡信治（長崎大学教育学部）、久村貞男（長崎県佐世保市教育委員会）、山口勝也（株埋蔵文化財サポートシステム）、渡邊康行、長崎県教育委員会（敬称略・五十音順）

11. 本書の作成は辻田による。

目 次

中 表 紙
発行にあたって
例 言
本 文 目 次
挿 図 目 次
表 目 次
図 版 目 次

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査にいたる経緯	1頁
第2節 発掘調査の方法及び経過	1頁
第3節 遺跡の地理的・地形的・歴史的環境	1頁

第2章 基本土層

第1節 調査区内の土層堆積状況	4頁
-----------------	----

第3章 旧石器時代

第1節 第VI a下層出土遺物	6頁
第2節 層位外出土遺物	7頁
第3節 第VI a上層出土遺物	8頁

第4章 繩文時代

第1節 遺構 溝	10頁
第2節 草創期遺物	10頁

第5章 自然科学分析

第1節 火山灰分析	16頁
第2節 放射性炭素年代測定	27頁
第3節 植物珪酸体分析	29頁

第6章 まとめ

第1節 総括	36頁
第2節 まとめ	36頁

図 版

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/20000)
第2図 遺跡周辺地形 (1/10,000) 2頁
第3図 調査坑配置図 (1/1,000) 3頁
第4図 基本土層図..... 4頁
第5図 調査坑土層堆積状況・TP-1～TP-7(1/40) ... 5頁
第6図 TP-9旧石器時代遺物分布状況及び土層図(1/40) ... 6頁
第7図 TP-9第VI a下層出土旧石器時代遺物(2/3) ... 7頁
第8図 層位外出土旧石器時代遺物(2/3) ... 7頁
第9図 TP-7・TP-10第VI a上層出土遺物(2/3) ... 8頁
第10図 TP-10検出の遺構と土層(1/80・1/20) ... 9頁
第11図 TP-10草創期遺物出土状況(1/40) ... 11頁
第12図 TP-10第IV a層～第V層出土遺物(1/2) ... 13頁
第13図 TP-10第IV a層～第V層出土遺物及び TP-7出土関連遺物(2/3) ... 15頁
第14図 小ヶ倉A遺跡との土層の対比 ... 37頁
第15図 小ヶ倉A遺跡と近隣の遺跡 ... 38頁
第16図 TP-10出土土器・A類器形予想図(1/6) ... 39頁

表 目 次

第1表 旧石器時代出土遺物計測表	8頁
第2表 草創期土器計測表	13頁
第3表 草創期石器計測表	14頁

図 版 目 次

中表紙

小ヶ倉A遺跡上空より百花台遺跡群及び雲仙普賢岳を望む
図版1

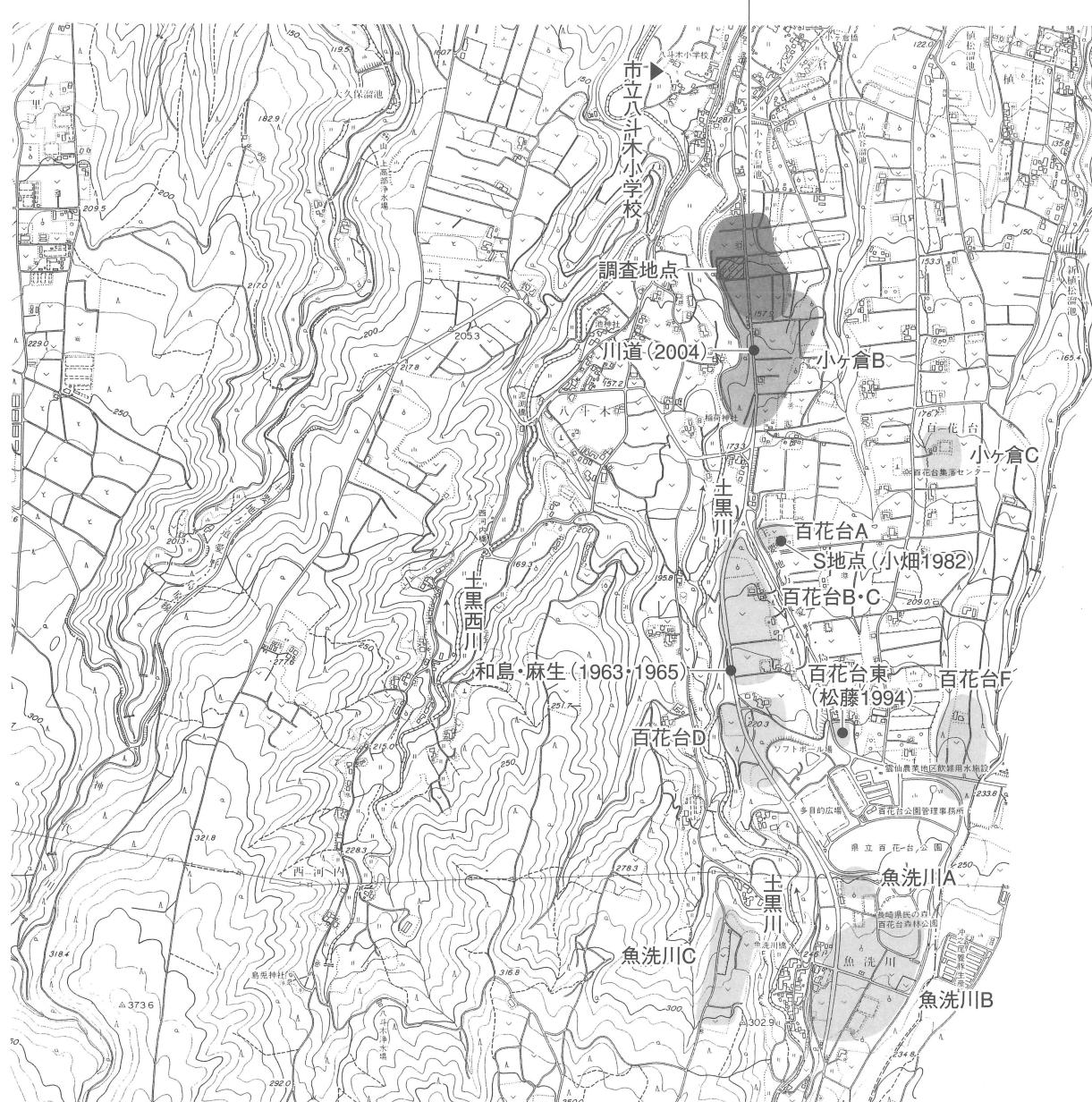
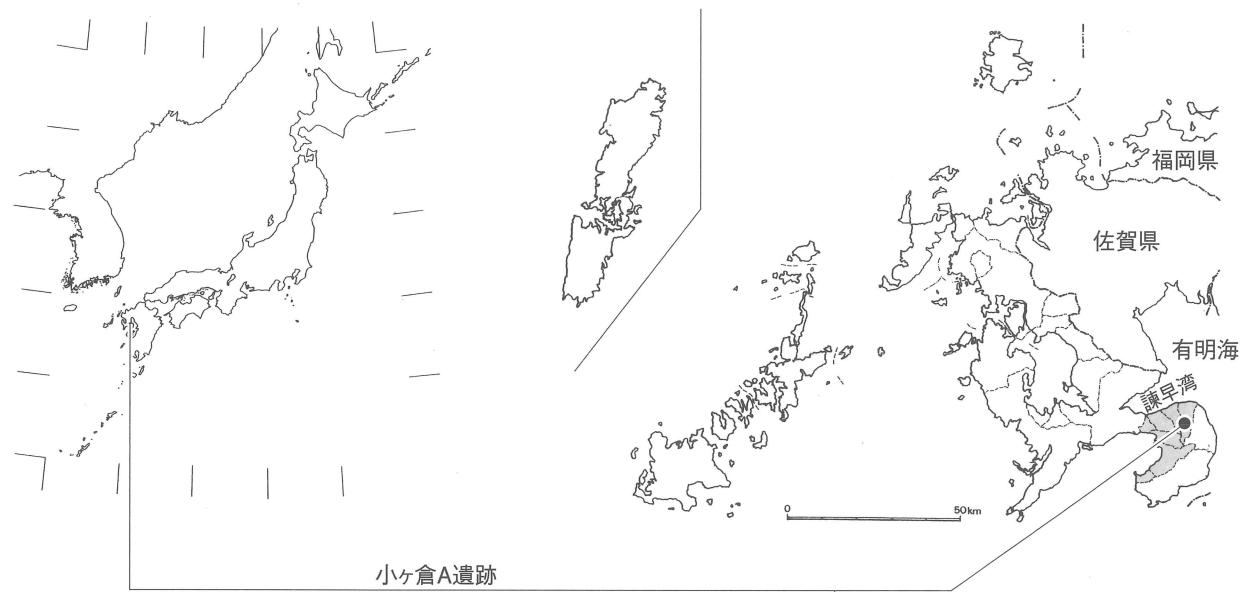
遺跡上空写真 (昭和35年国土地理院)

図版2

調査風景 TP-4 土層堆積状況
TP-9 土層堆積状況 TP-7 土層堆積状況
TP-10調査風景 TP-10草創期遺物出土状況
TP-10南壁土層堆積状況 TP-10東壁土層堆積状況

図版3

出土遺物



第1図 遺跡位置図 (1/20000)